

◆ 「もう少し早く魅力を知れたら」

大学で私の周りには関東出身の友人が多く、秋田出身は珍しいため様々なことを聞かれます。その中でも「秋田って何があるの？ねぶた祭りだけ？」という質問を冗談抜きでよくされます。否定しつつ、生まれてから小中高と18年間過ごした私も秋田のことについてはガイドブックに載っているような無難な知識しかないためどう答えるべきか迷ってしまいます。そのためこの資料の網さんの「大学以外ではピンポイントで思い出すものはない」という言葉に親近感が湧きました。秋田の魅力は実際に深く触れないとわからないものが多いのだと思います。他の県から大学進学などでやってくる人は矢崎さんや渡邊さんのようにぜひ積極的に秋田と関わってほしいと思いました。

私も進学で秋田を離れ、仙台市で1人暮らしをしています。秋田を離れるまでは、地元についてもあまり魅力を感じなかったし、早く地元を離れたいと思っていました。しかし、実際に地元を離れてみると、早く地元に戻りたいと常に感じるようになりました。1人暮らしを始めた頃がコロナ過だったということもあり、人と交流する機会がほとんどなかったため、余計に寂しい気持ちが強かったです。だからこそ、地元に戻って地元の人の温かさに触れたいという気持ちが強くなりました。地域の人々の温かさに触れることができるのは、やはり地元が一番だと感じました。また、地元の方とのローカルトークを通して、地域の新たな魅力に気づくことができます。地元を離れたからこそ地元の魅力に気づくことができ、これまで以上に地元愛も強くなりました。今では大学を卒業したら、地元で就職したいと思うくらい、地元が大好きになりました。これからは周囲の人にもっと地元の魅力を発信できたらいいなと思います。

私はこの記事を読んで行動することの重要性を感じさせられました。3人の方は行動をされ秋田の魅力に気づき、網さんは行動をもっと早くしておけばよかったと言っていました。今大学三年の私は、大学の地にいることは後1年半しかありません。でも、1年半あるからこそ今から行動範囲を広げ色々なことに意欲的に挑戦し、この地の魅力を知りたいなと思いました。

また、最近秋田に戻るのが1年に1度となっていますが、もう一度秋田の魅力に触れられるような体験を今の内に行ないたいなと思いました。一度秋田の地を出た今だからこそわかる秋田の魅力があると思います。もし、秋田以外の地に就職すればもっと時間がなくなり、秋田について知る機会が少なくなってしまいます。時間のある大学生だからこそできることだと思っています。そんなことをこの記事から教わりました。

新聞記事を読んで、秋田県民以上に秋田のことを好きになってくれる人がいることを知って、嬉しくなりました。特に矢崎さんは、地域の人たちと交流するためにシェアハウスに住むことにしたという行動力が素晴らしいと感じました。秋田を離れて1年半が経ちましたが、私も秋田に住んでいた頃には気づかなかった魅力に気づかされるのが度々あります。例えば、秋田県民の温かさです。私は初心者マークを付けて運転しているのですが、仙台ではそのような車に対して思いやりのないドライバーが多い印象です。しかし、秋田は譲ってくれたり、温かく見守ってくれたりする方が多いです。今後も変わらず秋田を想う気持ちを大切に、魅力をもっと見つけていきたいです。

現在私は大学にて主に地域福祉の観点から福祉に対して学びを深めている。その背景の中で福祉の視点において、国際教養大学の3名を挙げた記事に焦点を当て感じた事を以下述べる。

この記事を見聞きした事は、若者から見た秋田ならではの魅力があるという事だ。しかし、この3人は具体的な魅力を明言してはいない。それが、私にとって非常に共感するところだと感じている。実際に約1か月にわたり地元である横手市で学びを深めている上で確かに秋田県は住みやすく助け合いも人口の比率から見て多い方だと理解している。しかし、この3人のように秋田県の魅力において言語化し難い魅力が必ず存在していると感じる。その魅力に少しでも気づいていただいた3人に対しては横手市民と福祉を学んでいる立場として嬉しく感じている。

私は、上記の感想を踏まえ秋田県の言語化し難い魅力を多種多様な自治体の見聞を広めた上で明白に魅力を発見したいと改めて強く感じた。

この資料は読む人に何を伝えたいのかを考えたとき、自分自身が興味や関心を少しでも持つような分野を見つけたのなら後悔する前に行動に移すべきであるということを伝えたいのだと感じた。この資料でお話をされている三名の方たちはどれも秋田の魅力を「もっと早く」知るべきだったと語っている。「もっと早く～してれば」や、「もっと早く～だったら」などといった「タラレバ」が多くあった。その原因として自分の目で見ずにイメージや偏見だけで考える秋田と、実際に自分の目で見て感じた秋田とでは大きく違ったことで、何故もっと早く気付くことができなかつたのだろうと後悔してしまっていることが資料を見て感じ取れる。少子高齢化が大きく増加していく秋田にとって若者の力は必要不可欠なものになるだろう。だからこそ秋田はイメージ像を増やせる活動を、若者は後悔しない選択をする必要があると感じた。

進学をきっかけに色々な人が秋田の魅力に触れることができるのはとても良いことだと感じました。実際にその地域に行って、初めて分かることや感じることはたくさんあると思うので、秋田の魅力を感じてくれたことはうれしいです。高齢化社会である現代では、若者の力はとても重要なものだと思うので、このようなことをきっかけに秋田という地域に多くの人に関心を持ってくれたらいいなと感じました。卒業後も秋田と関わろうとしてくれていることがすごいなと思いました。もっといろいろな人に秋田の魅力を伝えていけるように、私たち自身も発信していけたらいいなと思います。そして秋田がもっと魅力あふれる場所になったらいいなと思いました。

「もう少し早く魅力を知れたら」を読んで秋田の魅力は、豊かな自然と地域の人とのかかわりにあると感じた。大学に進学して、秋田よりも大きな建物が多い都会色の強い地域で過ごしてみて、圧迫感を感じることも度々ある。そのため、秋田に帰省するたびに田園風景や森を見てとても心が癒されている。田舎といってしまうとマイナスなイメージがつくが、みんなのふるさとになりうるのどかな地域ととらえれば、秋田の魅力が伝わりやすいと感じた。新聞記事からもわかるように、3人の人たちはみな地域の人たちと関わることの重要性について語っていた。3人とも秋田県出身ではないが、地域の人たちのおかげで秋田県への愛着を深めていた。このことから今後の秋田を支えて発展させていくには一部の人だけではなく、すべての人が積極的に人と関わろうとする意識が大切だと考える。秋田県民の温かさを伝えることができれば、年々深刻化している少子高齢化問題の解決にもつながるであろう。